

よしたき
芳滝

ひとし
仁 議員

幕別町における、今後の高齢者福祉施策について

本年の高齢社会白書には、現在総人口は1億2806万人で65歳以上の人口は過去最高の2958万人、高齢者比率は23.1%と示している。本町の人口は27461人で65歳以上は6873人、高齢化率は25.03%で4人に1人が高齢者となっており、今後、よりきめ細やかな高齢者福祉施策が求められる。

徘徊高齢者探索システムの町民周知が不十分。成年後見制度の活用は高齢者の生活不安の対応に大切な制度であり、特に判断能力がある間に後見人を決める任意後見制度の活用推進が必要だ。

在宅で家族を介護されている方への補助や電磁調理器4点セット、火災警報器の給付等、高齢者にやさしい施策を拡充し広く町民周知を図るべきだ。

食の自立支援サービスについて、利用数が減っている原因を精査し、また、家庭事情によりサービスを求める高齢者にも親切的な対応を求める。

敬老会について、廃止を含めた見直しを行い、別なカタチで高齢者に敬意を表す事業について考えるべきだ。



町長 徘徊高齢者探索システムは、平成13年より事業実施をしている。町民周知は限られた人が対象で、介護の認定を受ける、あるいはマネージャーとの相談等、そういった中で家族の方にこういう機器を貸与するというのを、個別に周知している。

成年後見制度について、制度の重要性は増してくるものと理解している。今後も啓蒙活動、相談窓口の強化に努めて行きたい。

在宅介護の介護の支援について、家族での介護を選択された場合の制度として、介護慰労金支給事業を継続し、在宅介護を支援していきたい。

現在、日常生活用具の給付事業として、電磁調理器の給付と老人電話の貸与を行い、平成22年度の実績は電磁調理器、老人用電話各1件となっている。

食の自立支援サービスについて、今年度より、交付金を活用し、保温・保冷が可能な耐熱性専用容器を購入する準備を進めており、より安全で温かい食事の提供を行うよう改善にも努め、利用促進に向け努力をしていきたい。

敬老会について、老人クラブ連合会の役員の方と敬老会の有り方

について、本年7月の協議の場で、「平成23年度の敬老会をもって廃止もやむなし」と合意をいただいたところで、今後各単位老人クラブや公区長会議等で廃止の説明をし理解していただく努力をして、今後については、どんな方法がいいのか、皆さんの意見を聞きながら、これから検討していきたい。

再質問 老人クラブでの活動には常に敬意を表しているが加入率が減少している。高齢社会白書には、高齢者の社会貢献、地域ボランティア、介護ボランティア、学校ボランティアの推進をはかるべきだとあるが、町の考えを伺う。

答 社会貢献についても大事なことなので、さらに老人クラブ連合会の役員の方と協議しながら支援をしていきたい。



日常生活用具の給付事業で給付した卓上型電磁調理器